

こおろぎ

踊る阿呆に、見る阿呆

- 1、私達は、とかく自分のしたい話をしがちですが、話をする前に、「それは事実か?」「それは言う必要があるか?」「伝え方はやさしいか?」を考えてから話をするようにしよう。
- 2、自分に対する批判や忠告は参考情報として聞き、教えてくれた人にはお礼の言葉を送ろう。
- 3、自分が人に忠告するときは、出来るだけ腰を低くして伝えるようにし、「何故そう思ったか」という理由を明らかにする。言い終わったら相手の感想を確認しよう。
- 4、「～しなくてはならない」という気持ちで行動すると、苦しくなり、損をしている気持ちになってきますが、「～してあげたい」という気持ちで行動しているときはあまり疲れません。行動するときには、親切な気持ちを意識しよう。

先月号で紹介したCLの国際学会で、上のような提案があったのですが、この4番目の内容を最近、実体験したのでご紹介したいと思います。

9月14～15日に、全国掃除に学ぶ会の全国大会が三重県伊勢市で行われました。

私達も同じ中部ブロックですし、ブロック長の橋本さんには大変お世話になっているので、少しでもお返しするチャンスだと思ひ、二日間会社を休みにして、社員全員でこの大会に参加することにしました。

しかし、それだけでは他の参加者同様お世話になるだけで、少しも応援をしたことになりません。そこで前日から三重に入り、会場設営のお手伝いをさせてもらったり、交流会で「ハモネブ」の真似事をさせてもらうことにしました。

社員さんにとっても二日も家を空けることは大変なことですし、仕事が終わってから「ハモネブ」の練習をするのも大変だったと思います。しかし、三重に行って「少しでも喜んでもらおう!」と思って動いているうちに、「ここまでやったのだから、あれもやろう!」「これもやろう!」という気持ちになってきて、沖縄の人達と踊ったり、最後の見送りまでやらせてもらいました。

きっと、やらされていたらどんなに大変だったでしょう。ところが、「少しでも喜んでもらおう」と思ってやっていると、やればやるほど思いがこもってきて、まるで「自分たちの大会」のようにより良くしたくなってくるのです。

同じ会社、同じ仕事をしていても、苦痛を感じる人と、そこにやり甲斐を見つける人がいますが、今回応援に行き喜んでもらうつもりが、逆に私達の方がたくさんの感動をもらったのです。

更に嬉しかったことがありました。大会終了後、社員さんから右の葉書もらったのです。

彼は、「こおろぎ」郵送の作業の時などでも、翌日、皆がいるときに大勢でやれば楽なのに、「それでは明日の人達が大変になるから」と言っ、自分から最後までやっていく人です。

不幸な人は、とかく自分のことばかりに関心が行きがちですが、彼のような人は、ダンスを見ている、人のことを思っているのですね。

こうした喜びも主催して下さった三重の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

伊勢の全国大会に参加させていただきありがとうございました。
 今回、参加させてもらって本当に良かったです。
 閉会式で見た「風神」(中学三年生が作ったダンスチーム)を見ていて、知らぬ間に涙が出てきました。
 「死んだ亀山にも見せてやりたかったなあ」
 そんな思いが、涙を止められない理由でした。
 小澤隆弘

平等について

夏休みに家族旅行で北海道に行ってきました。行きは飛行機で行ったのですが、帰りは寝台車特急を選びました。その寝台車の中のことです。

私たちは家族五人でしたので、誰か一人が他の部屋に寝なくてはなりません。そこで私が他のご家族と一緒にの部屋に寝ることにしました。しかし、知らない男性が同じ部屋にいるということは女性にすれば不自由なことだと思います。

そこで朝早く目が覚めた私は、静かに家族の部屋に行って朝を待つことにしました。そうしていると子ども達も目を覚まし、隣の方たちも起きたようなので、子ども達に「お父さんの毛布を直して来てくれ!」と頼みました。

するとどうでしょう。子ども達が「え～っ、自分のことは、自分でするんだよ!」「不平等だよ!」と言うのです。

私にとっても、毛布をたたむくらいのは決して大変なことではありません。しかし、そちらの家族にしたら大人の私が入って行くより、子どもが来た方が気持ち良かったのです。

私は良い機会なので、「平等」について私の考えを話すことにしました。

「旅行中、重い荷物を皆に持ってもらったかな? この旅行のお金を皆が平等に出し合ったかな? お父さんは力の弱い子どもや女の人が、お父さんと同じように重い荷物を持つことを平等だと思わないだよ。皆が同じ事が本当に平等なのだろうか? お父さんはそういうのを『無差別』と言うと思うんだよ。」

私の言ったことを理解したかどうかは分かりませんが、私が洗顔に行っている間に、子ども達が毛布をたたんでおいてくれました。

私の考えを封建的と言う方がいるかも知れませんが、私は大人と子どもが決して「平等」だと思っいていません。企業においても社員さんと経営者が平等である訳がないと考えています。

戦争中には、部下を逃がしても自分の身体は船に縛り付けて船と一緒に沈んでいった軍人もいたようですが、いざとなったときの覚悟が違うのです。

長いこと平和な時代が続き、最近では女性に守ってもらう弱い男性が増えたようですが、その人達はもし戦争でも起きたときは「ジェンダー」でも言っって女性に守ってもらうのでしょうか?

カウンセリングをしていても、虐待やDVなど未成熟な大人の事案が急増していますが、そうした意味からも大人と子どもが同じではいけないと思うのです。皆さんはどのように思われますか?

☆☆ お便りコーナー ☆☆

チョット嬉しいことがありました。娘と息子の作文がコンクールで入選したのです。娘の題名が「お父さん」、息子が「父と剣道」でした。娘の作文には、保育園の頃から僕にしてもらったことが描かれ、「いつまでも元気で」と結ばれていました。息子の作文には「中学に剣道を教えたときの父の姿がうれしく見えた」とありました。親バカかもしれませんが、本当に嬉しかったです。

研修ありがとうございました。
 家に帰って「主人にしてもらったこと」を思い出してみたのですが、ビツクリするほど出て来ませんでした。
 講義で言われた「人は、感心のないものは目に映っていても、見えない」というお話が思い返され、自分がいかに「不満」ばかりに意識を私に生かしていたかに気が付きました。これからは人のやさしさや、してもらったことに意識をチューニングしていきます。
 死ぬときに、思い出すのが不満ばかりだったら寂しいですからね。本当にありがとうございました。